

研究課題名	患者背景因子がもたらす Leucine-rich alpha-2-glycoprotein(LRG) 値の変動について：横断研究
研究の意義・目的	LRG は炎症性腸疾患の活動性を評価するためのバイオマーカーの一つです。近年、糖尿病や慢性腎臓病など様々な疾患と LRG の関わりについて研究が行われております。様々な疾患を背景因子とし、それら因子が LRG 値に変動を及ぼすのか否か、すなわちバイオマーカーの結果に影響を及ぼす因子を明らかにする事は重要です。本研究では既存情報を用いて、患者様の背景因子が LRG 値に影響を及ぼすのか否か、検討致します。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ～ 2026 年 3 月 31 日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2021 年 7 月 5 日～2024 年 4 月 30 日の期間に大阪公立大学医学部附属病院で LRG の検査が行われた方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記①～④の項目を本研究に使用させてください。 ① 患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、BMI、喫煙歴、血圧、診断名（Crohn 病、潰瘍性大腸炎など）、疾患既往歴、手術歴、使用中薬剤（糖尿病治療薬、降圧薬、脂質異常症治療薬など）、疾患活動性評価指標（Harvey-Bradshaw index、CAI など）、炎症性腸疾患の治療や寛解の有無、腸管狭窄症の有無。 ② 血液検査結果：白血球数、白血球分類、赤血球数、血小板数、好中球数比率、MCV、MCH、MCHC、赤血球沈降速度、血清 CRP、総蛋白、アルブミン、クレアチニン、eGFR、BUN、UA、T-Bil、D-Bil、Na、K、Cl、AST、ALT、AMY、ALP、 γ GT、ChE、LD、血糖値、HbA1c、TG、TCHO、LDL-C、HDL-C、Non HDL-C、換算 LDL-C、LDL/HDL ratio、FIB4-index、LRG、プロカルシトニン、BNP、NT-proBNP、トロポニン T。 ③ 尿検査：尿蛋白、尿アルブミン、尿中クレアチニン、尿中 NAG、尿中 β 2mG、尿潜血。 ④ 便検査：便中カルプロテクチン、便潜血。
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学医学部附属病院の中央臨床検査部のみで行います。 【研究責任者】奥井 靖子 大阪公立大学医学部附属病院 中央臨床検査部 公式ホームページ (http://www.med.osaka-cu.ac.jp/rinsyo/)
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 中央臨床検査部 担当者氏名：永倉 優 電話番号：(06) 6645-2215 メールアドレス：c21228s@omu.ac.jp